

山田みやこの活動報告

令和元年6月3日(月)

日光市のNPO法人だいじょうぶの認可外保育施設「ひだまりキッズ」を訪問

理事長 島山 由美 氏、金子相談員から活動状況を聞いた。

ネグレクトにより泣くこともできない子ども達が目前にいる。早い時期にお母さんを支援することが重要。家族のような関わりで見相、保健師、相談員で役割分担して24時間相談を受け付けている。上手く支援の波に乗り、エンパワーメントされた時、その子や母親の持つ力により自分の足で歩いて行くことを実感している。

保育園に行くまでの過程を主に支援している。

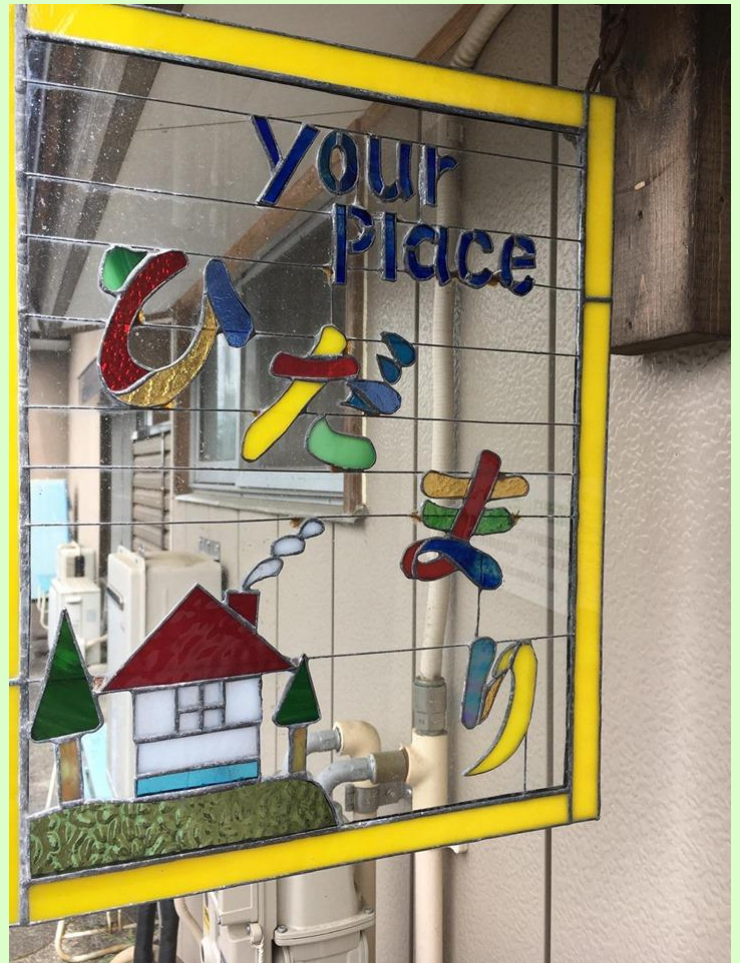
・虐待事例を研究した長谷川 真理子氏の言葉から

経済的支援が充分ない(経済的余裕がない)と子どもに愛情がかけられなくなる。特にシングルマザー、若年層、精神疾患、生活困窮者は積極的支援が必要。精神疾患は見た目ではわかりにくく、理解されにくい。産後うつは今、10人に1人とも言われる。ちょっと見てくれる実家のような存在をあえて作らないといけない。

周りの人が上手く子育てしているように見えて、自分が出来ていないと思うことで孤立し、密室での子育てのため虐待してしまいそうというSOS

認可外保育円の申請をして「ひだまりキッズ」を開所。乳幼児はリスクが多いため規制が多く、運営は厳しい。現在、定員は1日5名。本当に必要な子どもの利用と、特定妊婦(実家に頼れない・望まない妊娠)への支援。

心が育っていない母親、優しい言葉を掛けられたことがない母親に対する誤解が多く、保育園側は入れたくないということも壁になっている。



家庭にいる子が孤立している。また母親を犯罪者にしないために無条件で預かる場としている。行政の子育て支援は働いている人に対しての支援が先になっている。

子どもを虐待してしまう親の回復プログラム「MY TREEペアレンツ」を実施。大変効果があるが県の予算が少ない、虐待が社会問題となると児相の職員増だけでは無理。親の回復プログラムの重要性を認識してほしい。

宇都宮市においても、乳幼児期の母子支援が現実が必要とされている事例がある。星の家、月の家において、今後ひだまりキッズのような早い時期にお母さんを支援し、実家のような関わりを持ち自分の足で一人歩きができる母子になれるよう動きが出てきていることに大変期待と願いを込めている。

乳幼児期に見守られて育つ環境に関わりがない子が一人でもいなくなるように、周りの大人が関わる言葉をかけ、子どもを大事にみんなで育てることが重要。